



放射線相談室だより 74号

令和3年2月19日

1 今年度も個人の外部被ばく線量を測定しました

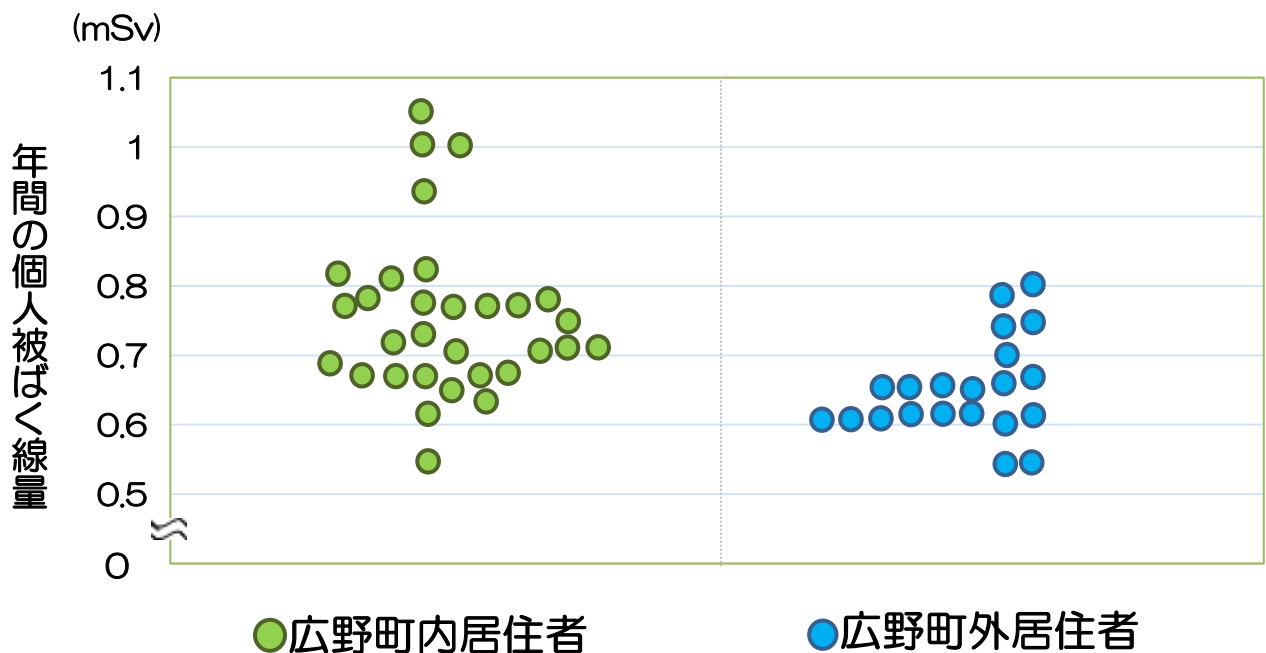
調査にご協力いただいた方：52名

使用した機器：個人被ばく線量計（Dチャトル）

測定期間：2週間（令和3年1月8日～21日）

結果：

今回の結果から推定された年間の個人被ばく線量



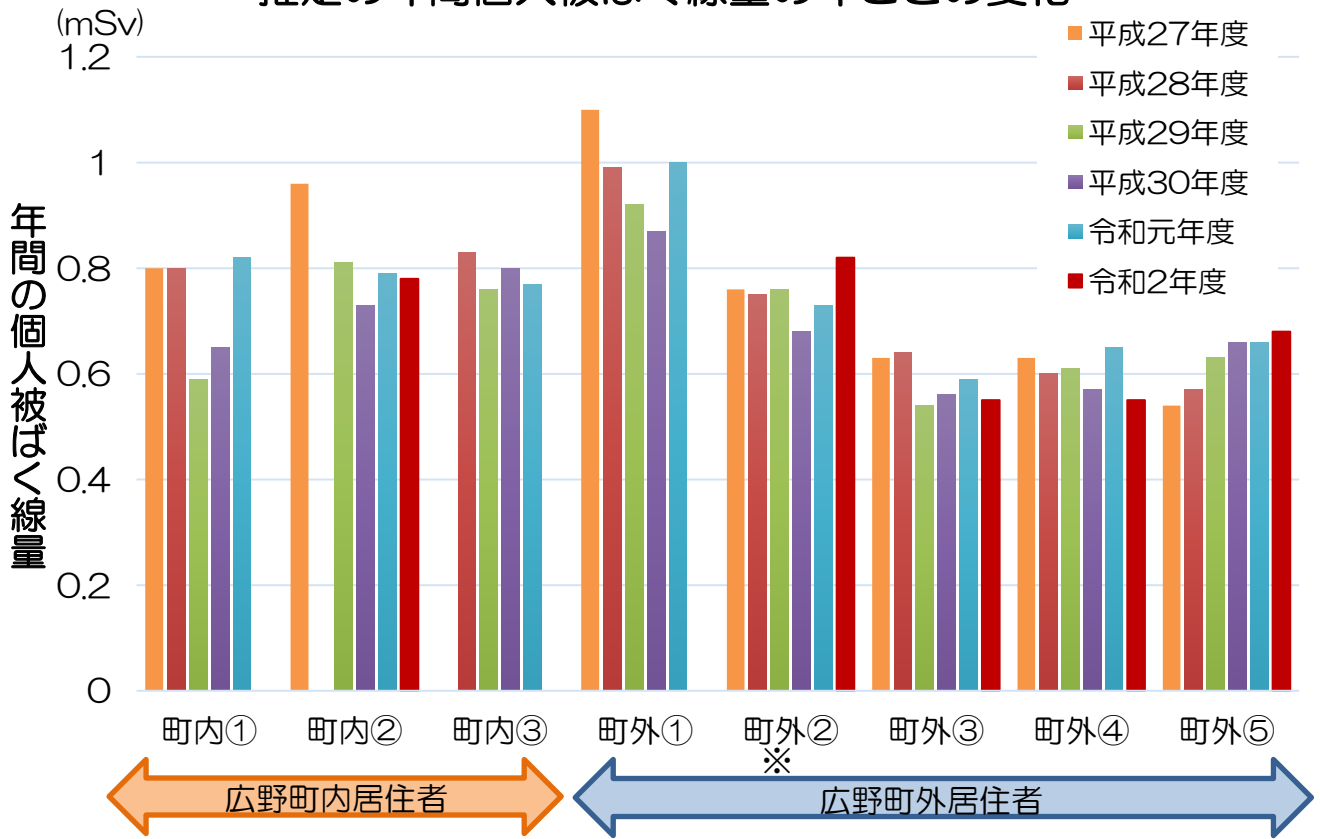
今回の調査では、市内居住者の中央値が0.74mSv、町外居住者の中央値が0.64mSvでした。

昨年度は、市内居住者の中央値が0.80mSv、町外居住者の中央値が0.65mSvでしたので、昨年度と変わらない値です。

昨年の報告でもご紹介しました、継続して調べている5名の方々の年ごとの変化を見てください。

(町内①、町内③、町外①の方は、今年度測定しておりません。参考情報として掲載します。)

推定の年間個人被ばく線量の年ごとの変化



※町外②の方は、令和元年より、広野町内に居住しています。

個人被ばく線量計 (D シャトル) の値には自然放射線量が含まれています。事故前の広野町での値 (年間約 0.35 ミリシーベルト) を差し引くことで、事故の影響による追加被ばく線量がわかりますよ。



食品のモニタリング結果総括表

(令和3年1月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	2	2	0	
根菜・芋類	—	—	—	
山菜・きのこ	—	—	—	
果物	1	1	0	
穀類	—	—	—	
種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	—	—	—	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	—	—	—	
総検査数	3	3	0	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所 公民館1階 放射能簡易分析センター
 曜 日 月曜日から金曜日(祝日を除く)
 受付時間 午前8時30分～午後4時30分まで

広野町各地区の放射線量

令和3年2月16日13時30分現在(天候:晴)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)	測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)
広野小学校	0.09	広野町役場	0.09
広野中学校	0.08	高速バス利用者駐車場	0.14
広洋台地区集会所	0.11	上田郷橋付近 ^{注1}	0.12
二ツ沼公園 ^{注2}	0.08	北沢複合交差点	0.12
長畑地区集会所	0.11	県道広野～小高線沿	0.12
小滝平浄水場 ^{注2}	0.07	仮置場	0.11

注1 平成29年3月設置

注2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではnGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

復興から新生へ向けて～3

東日本国際大学 客員教授 北見正伸

前回まで2回に分けて、復興から新生に向けて～広野町の魅力を最大限に活かす～その方策の一例としてヘルスクレームツーリズムを取り上げ、ヘルスクレームツーリズム（健康効用型観光）の内容とその実施方法を概略的に紹介しました。

今回はこのヘルスクレームツーリズムによる地域への経済波及効果について紹介します。

経済波及効果はある国や地域の産業連関表：逆行列係数表【 $(I-A)^{-1}$ 型および $\{I-(I-M)A\}^{-1}$ 型】を用いて数学的に産業連関を分析する方法です。つまり、ある地域のある産業部門に新たにX円の投資をすることによって、その地域全体の産業経済活動にどの程度の波及効果（X円の何倍？）があるかを計算するわけですが、今回は産業構造が広野町に比較的似ていると思われる地域の産業連関表を使用し、ヘルスクレームツーリズムの産業部門分類としては観光産業が属する「サービス部門」を設定して概算（【 $(I-A)^{-1}$ 型】）してみました。

その結果、ヘルスクレームツーリズムを実施することによるサービス産業における新たな投資を年間で2億4千万円とすると、その経済波及効果は地域全体の産業で4億1千万円程度と試算され、約1.7倍の経済波及効果が見込まれる結果となり、その経済効果は全ての産業部門に波及しています。

広野町の豊かな自然風土や味覚や町民と触れ合いながら、広野町独自のヘルスクレームツーリズムを通して広野町の安心・安全をツアー参加者に身をもって実感してもらうことが風評被害払拭と定住人口増加（特に若年層）対策でもあり、新たな産業部門の創生と既存産業部門の伸展に繋がり、広野町の復興から新生への動きを力強く後押しするものと期待できるのではないのでしょうか。

発行者

広野町健康福祉課 放射線健康相談室 0240-27-2113